

前 言

高知大学大学院総合人間自然科学研究科

教育学専攻長 遠藤隆俊

平成 25 年度は全国の教員養成系大学、学部にとって大きな節目の年となりました。ミッションの再定義が確定し、それにとまなう大学改革が大きく動き出したからです。高知大学教育学部においても新課程である生涯教育課程を廃止することとなり、大学院教育学専攻においては教職大学院を設置することを決定しました。教職大学院については、現在、関係諸機関と連絡を取りながら設置の準備を進めているところです。

この報告論集にある教育実践研究と長期インターンシップは、もともと教職大学院のカリキュラムを参考にして作られた実践的な授業であり、教職大学院の設置にあたってこの2つの授業はカリキュラム上の大きな柱の1つになることは間違いありません。教員養成機能の高度化および学び続ける教員像の確立に向けて、教育実践研究と長期インターンシップの果たす役割はますます重要となります。

さて、平成 25 年度高知大学大学院教育学専攻、教育実践研究 I II および長期インターンシップ I II III IV の報告論集をお届けします。前述の通り、本専攻におきましては大学院生の教育実践力を高めるために、教育実践研究と長期インターンシップを設けています。教育実践研究 I は大学院 1 年生の 2 学期に附属学校園で、II は 2 年生の 1 学期に附属学校園をはじめとする高知県内の協力機関において、長期インターンシップは 1 年生から 2 年生の長期にわたって附属学校園および協力機関で実施する実践的な授業です。

内容は主に学校教育に関する調査や観察、授業研究であり、大学院生は指導教員と相談して自己のテーマを決め、各機関の指導者と協力しながら研究およびインターンシップを推進します。本年度の報告は教育実践研究 I が 29 編、II が 15 編、長期インターンシップが 4 編であり、この中には修士論文である課題研究につながるテーマも多く見られます。これらの研究とインターンシップは本専攻のカリキュラムの中で最も重要な位置を占める授業であり、大学院生の実践力と研究力が試される場でもあります。

本論集に対し忌憚のないご意見とご批判を仰ぐとともに、研究とインターンシップにご協力いただいた関係諸機関の皆様へ、心から感謝を申し上げます。